

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	説明	意見・改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○			一人当たり約4㎡	車椅子を外に出せない日は狭く感じる。
	②	職員の配置数は適切であるか	○					曜日によって子どもの人数が異なるので、その日によって偏りが出てしまう。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○					
業務改善	④	業務(活動・行事・施設運営・事務・環境整備など)の改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○					
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○				毎年9月の保護者会で実施→役員会・理事会などで議論→保護者会で公表→ホームページで公表	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○					
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○				今年度実施	
適切な 支援の 提供	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○					
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				放課後等デイサービス計画→こぴあでケース記録とか個別支援計画と言われているもの	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○				適応行動とは、年齢相応の周囲の期待の範囲内の行動(社会的な活動への参加、コミュニケーション、運動など)こぴあアセスメントシート	同じアセスメントシートを使うことで、共通意識を持って支援に繋がられている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○				活動プログラムとは日々の支援の中で、一定の目的をもって行われる個々の活動の事。子どもの障害特性や平日/休日/長期休暇の別途に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○					
適切な 支援の 提供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、内容や取り組みをきめ細やかに設定して支援しているか	○					
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	説明	意見・改善目標、工夫している点など
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ活動プログラムや放課後等デイサービス計画を作成しているか	○					
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○					欲を言えばもう少し細かい活動意図まで話し合う時間が欲しい。
	⑯	行った支援の振り返りを行い、気付いた点や子どもに関する必要な引き継ぎ等をスタッフ間で共有しているか	○					
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○					勤務日の関係で日にちが経ってからの記録の記入になってしまったり抜けてしまったりすることもある。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○				子ども一人当たり、年2回ケース会議	
関係機関 や保護者 との連携	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○				①自立支援と日常生活の充実のための活動②創作活動③地域交流の機会の提供④余暇の提供	コロナ渦で創作活動のバリエーションが増えた。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○				2017年度より計画相談の面談に班の担当職員が同席。	
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○				各学校から年間予定(保護者を通じてもあるが)を入手。学校(城東・墨東)が開催する放課後等デイサービス連絡会に出席。必要な時に個別支援会議。	
	㉒	医療的ケアが必要な子供を受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○					
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○					
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	説明	意見・改善目標、工夫している点など	
⑳	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○						

関係機関や保護者との連携	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○					コロナ渦によりできていない。
	②6	地域の中で活動したり、障害のない子どもと一緒に活動や場の共有したりする機会があるか		○					コロナ渦によりできていない。
	②7	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		○					
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか		○					
	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、課題解決のための取り組み(学習会の企画や案内、サービスの紹介、緊急一時保護など)を行っているか。		○					総則には「保護者が子どもに向き合うゆとりと自信を回復することも、子どもの発達に好ましい影響を及ぼすものと考えられる」
保護者への説明責任等	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○					毎年説明する場を設けているが、保護者からは受けていないという声も聞かれる。
	③1	保護者からの子育ての大変さや悩み等を聞いた際、傾聴や共感、意見交換を行う、各事業担当職員につなぐなど、適切なサポートにつなぐ取り組みを行っているか		○					
	③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○					
	③3	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		○					
保護者への説明責任等		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		説明	意見・改善目標、工夫している点など
	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○					
	③5	個人情報に十分注意しているか		○				雇用契約書の署名欄	
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		○					
	③7	事業所や障害理解の増進を図るため、地域住民に向けた行事を行う、ボランティアや実習生を広く受け入れる等、地域に開かれた事業運営を図っているか		○					こびあまつりはコロナで中止になってしまったが、地域交流のバザーには参加。実習生の受け入れもしている。
非常時等の対応	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○					
	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○					
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○					
	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○					身体拘束委員会を設置。
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○					保護者からの指示に基づいて対応している。
④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○						

第3こびあクラブ 総評・改善点

・保護者からいただいたコメントが日々の活動を作る活力になりました。コロナ渦でもなんとか子どもたちに楽しい時間を！！とスタッフ間で力を合わせて やってきたことが、伝わっていてうれしかった。これからも感染対策を行いながら、楽しい時間・空間を作っていきたい。

・お出かけの機会が減り、お祭り、キャンプができていないが、保護者からは希望の声あった。感染者数や感染対策、いままでと同じ形は無理でもできる形を模索していきたい。

・今年度からクラブ独自のアセスメントしーを専門職が作ってくれた。みんなで取り組むことで共通理解が進んでいる。継続的に取り組み、継続的に子どもの発達をとらえていきたい。

・日々の忙しさから、活動がその日に決まるが増えているので、しっかりと活動意図をスタッフ間で確認しながら計画していきたい。